

## ごあいさつ



富士通アクセス株式会社

代表取締役社長 武市 博明

新年あけましておめでとうございます。

弊社はアクセスネットワークの機器ビジネスを中心に、パワーエレクトロニクス（パワトロ）ビジネスを加え、2本の柱で事業を展開してきております。

通信ネットワークの世界では、従来の電話を中核サービスとする回線交換網から、IPを構成原理とした新時代のサービス統合網への動きが、NGN（Next Generation Network）として明確にひとつの概念に結実して参りました。弊社の取組んできたブロードバンド・アクセスネットワークも、そのNGNを構成する足廻りとして改めて位置づけがなされております。もとより高速ADSLの進展・普及とともに日本はブロードバンドを世界一安価に享受できる超先進国として認知されており、e-Japan戦略の目標である「2005年までに4000万世帯で高速インターネットに接続可能」という目標も2年前倒しで達成しています。さらに、光アクセスの伸びがメタル回線上のADSLの伸びをすでに上廻るようになり、いわゆるラストマイルのファイバー化では、名実ともに日本は世界をリードしています。この先進性を支える技術的達成のひとつがGE-PONですが、そのGE-PONの商用展開も2006年は一段と加速して参りました。弊社はPON方式を従来より次世代の中核と考え技術および製品開発に取り組んで参りましたが、GE-PONはいま戸建加入者向けのボリューム・ビジネスとして成熟の段階を迎えたと認識しております。集合住宅向けには、光ファイバーのメディアコンバーターとメタル上の高速VDSLの組合せをご提供しておりますし、そうした足廻りをコアネットワークに集約する階層のなかで、レイヤー2のスイッチやCWDM光多重伝送装置も製品展開しております。また宅内側では、サービスの終端点を提供するゲートウェイの諸タイプを研究しており、宅内側・局線側双方に多彩なインターフェースを具備するとともに、ネットワークからのダウンロードで応用ソフトウェアを適宜入れ替えることにより多様な家庭内サービスを実現する方式を開発・提案いたしております。

本号巻頭では、NGNとして方向付けされたネットワークの市場や標準化の動向を概観し、アクセスネットワークに何が要求されるかを明確にするとともに、弊社の取組みについてまとめています。続いて、アクセス領域の新製品についてご紹介を行います。総務省から高速PLC規制緩和の官報が発出されたことにより、にわかに脚光を浴びているPLC（Power Line Communication）技術への取組みについても議論しております。

弊社のもうひとつの事業の柱であるパワトロシステムのビジネスでは、情報通信システム電源、半導体製造装置用システム電源、エネルギーテスト・システムのそれぞれのセグメントが市場拡大基調にあります。さらに、地上波デジタルTVの展開に伴って中継局用の電源システムの市場が伸張しつつあります。本号では、その中継局用のシステムをご紹介するとともに、エネルギーソースとしての電池系の試験システムの最新の成果を併せて報告いたします。

ぜひご高覧いただき、より一層のご指導ご鞭撻をいただくようお願いいたしますとともに、本年の明るい幕開けをお祈り申し上げます。